

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070701760		
法人名	社会福祉法人 倫尚会		
事業所名	グループホーム 倫尚園 Aユニット		
所在地	福岡県北九州市八幡西区馬場山東3丁目11番1号		
自己評価作成日	令和3年12月21日	評価結果確定日	令和4年1月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん	
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号	
訪問調査日	令和4年1月10日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム倫尚園は、福智山を望む自然豊かな環境の中に建つ特別養護老人ホーム、養護老人ホームとの高齢者複合施設の1階に位置しています。現在コロナ対策で大きなイベントは中止になっていますが、コロナ禍以前は3施設合同の餅つき大会や運動会、敬老会等があり、地域の方々と交流も行っていました。現在も感染対策を行いながら2階の地域交流ホームでは、ストレッチ体操や音楽クラブ、秋祭りなどのイベントを実施しています。グループホーム内では食堂や座敷、談話コーナー等一人ひとりを尊重し、くつろいでいただける空間づくりの他に、広々とした庭園で四季折々の山々を眺めながら車椅子でも気軽に散歩したり、気候の良い時期にはおやつ提供など野外での活動にも工夫を凝らし、利用者の「暮らしの場」として潤いと豊かさ、プライバシーに配慮した家庭的な生活環境を提供しています。職員は「認知症」に対する理解を深める為、勉強会やオンラインでの研修、施設内研修に参加し、知識や技術の向上を目指し、安心安全な暮らしができるよう努めています。令和2年1月より医療連携体制を整備し医療機関との連携を強化し、訪問看護と24時間体制で連携を強化し、利用者の健康管理の充実を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

各ユニットの入り口に掲示した理念を機会ある毎に全職員と共有し、入居者一人ひとりに居心地の良い空間の提供や、残存機能を活かしたその人らしい暮らしの継続を支援している。本人の「何でも自分でやりたい」との思いを、ベッド周りの手の届く場所への物品の配置や食後中庭を車椅子で3周する日課を支援したり、階上の施設に入所されている伴侶に会うことを目標に、歩行訓練を嫌がる入居者に声をかけている。毎週、ホームの固定電話で心配事を家族に話す習慣を支援したり、自宅までドライブし車の窓越しで家族との面会を叶え、昨年は医師や訪問看護との医療連携でホームで最期をとの意向を支援している。コロナ禍で、町内行事や運営推進会議が中止となっているが、近隣在住の複数の運営推進会議メンバーから書面で意見を寄せられ、家族との面会の制限や緩和が繰り返される中、笑顔満載のホーム便りで入居者の暮らしぶりを報告している。今後も、法人として認知症対応型共同生活介護を担う人材を育成し、理念の具現化が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **グループホーム倫尚園 Aユニット**

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は見やすい場所に掲示し、管理者・職員共に共有し、新人職員に対しては入社後に理念について説明・指導を行っている。	各ユニットの入り口に掲示した理念を、機会ある毎に全職員と共有し、入居者一人ひとりに居心地の良い空間の提供や、残存機能を活かしたその人らしい暮らしの継続を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として自治区会に入っており、コロナ対策以前は子供食堂や町内清掃、行事に地域の方々を招待する等交流を行っていた。	毎月参加していた町内の清掃活動や行事が中止となり、近隣の方とあいさつを交わすことも少なくなっているが、近隣在住の複数の運営推進会議メンバーから書面で意見を寄せられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は行事の時等に行政による認知症啓発のパンフレットや広報誌等を配布していたが、現在は地域の方々と接する機会が少なく実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対策で運営推進会議の開催は中止しているが、書面で開催し、意見を出して頂き、サービスの向上に努めている。	ホームの取り組みや活動、新規の入居者等について報告し、メンバーから寄せられた感染対応に対する激励やホーム便りに掲載された入居者の笑顔などの感想を議事録に整備し、全家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターとは空室状況の問い合わせや相談等にて協力関係を築いている。	月初に居室情報を市に報告し、地域包括支援センターから入居の問い合わせや依頼を受け、入居に至った方もある。市主催のリモート研修の案内があり、活用を検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	福岡県の「身体拘束ゼロ宣言」に登録しており、施設内研修や身体拘束等適正化委員会を3ヵ月毎に開催し、身体拘束についての具体的なケアを理解し取り組んでいる。(コロナ対策にてオンライン研修に参加)	法人で開催されている3ヵ月毎の身体拘束適正化委員会に委員である職員が参加し、伝達講習を行っている。身体拘束の具体的な内容や言葉による拘束も周知し、ユニット入り口だけではなく、ベッドの足元にセンサーを設置する場合は、家族の了解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については施設内研修や推進プロジェクト等に参加し、学ぶ機会を作り、職員間で情報を共有し、虐待防止に努めている。(コロナ対策にて外部の研修には参加できていない)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での研修、推進プロジェクト等に参加し、家族より相談を受けた時には対応できるよう支援している。(コロナ対策の為外部の研修には参加できていない。)	日常生活自立支援事業や成年後見制度について法人内で研修を行い、活用に向けて支援できるように資料を整備しているが、現在活用されている入居者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書面に沿って説明し、不明なことは理解、納得されるまで十分に説明を行っており、納得をいただいた上での契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には、意見・要望をその都度聞き、改善や運営に取り組んでいる。オンブズパーソンの来園が2か月に1度あり第三者の意見を聞く機会を設け、運営に反映させている。	コロナ禍の中、家族の来訪も制限されているが、電話で現況をお知らせしたり、笑顔満載のホーム便りで入居者の暮らしぶりを報告している。家族からは外部評価のアンケートは、「会えていないので答えようがない」など率直な意見があった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行う勉強会では、職員の要望や意見を聞く場を設けており、積極的な意見交換が行われている。	2か月に1度、勤務時間内でユニット合同の勉強会を実施し、入居者の変化や気付き、意見を話し合い、1日3回の申し送り時には、上手くいったケアの方法などを率直に話している。職員の意見をセクション会議に上げ、網戸の取り付けや流しの修理が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、やりがいや意欲向上の為にフレッシュ休暇や福利厚生の実施に取り組み、働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員の募集や採用に関しては、法人として行われ、性別や年齢等による排除はしていない。定年後も働ける体制を整えたり、職員一人ひとりの能力や要望を考慮し、施設内での異動やユニット替え、柔軟な勤務形態で対応し、個々の能力が発揮できる環境づくりに努めている。	30代から80才までの職員が就労し、産休や育休の取得や時短就業で勤務する子育て中の職員もあり、シフトを調整している。本人の希望や能力を発揮できるように、法人内やユニット間の異動もあり、研修費の補助で外部研修の機会や資格取得を奨励し、働きやすい職場となっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内研修や推進プロジェクトにて学ぶ機会を作り、勉強会でも具体的に話し合いを行い取り組んでいる。	年間研修計画に沿って、法人内で人権研修を実施している。理念に自己尊厳を保ち、安心した生活の保障を掲げて、個人として尊重される生活を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年間研修計画を立て実施を行い、リモートでの研修にも参加している。また、新人研修を個別に行っており、技術や知識の向上に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ対策により外部との接触を控えているため実施できていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まった時点で、本人が不安を感じていること等を傾聴し、フェイスシートをもとに本人の要望を重視しながらサービス内容を検討し、安心して生活ができる関係づくりを行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込時に家族の置かれている状況、不安感をしっかり聴き取り、信頼が深まるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込時から本人、家族と面談を行い担当ケアマネージャー、医療機関等からの情報を把握し、カンファレンスを実施して良いサービスが提供できるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活をする中でお互いに学び支え合う関係づくりに努め、人生の先輩である利用者からも多くの知識を得て共に暮らす関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や行事の参加等、家族の協力を得て本人を支えていく関係を築き、面会時には状況報告や相談、要望等を話し合いながら家族と一緒に本人を支援する関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所後も贈り物がしたいという方にはカタログから注文できるよう支援したり、いつでも連絡がとれるように携帯電話を使用できるよう支援している。	家族との面会の制限や緩和が繰り返される中、「子供に手紙を書くので便箋を買って来て欲しい」や、身体能力に応じた年賀状作成を支援している。毎週、ホームの固定電話で心配事を家族に話す習慣を支援したり、自宅までドライブし車の窓越しで家族との面会を叶えている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は様々だが、誰一人孤立しないようデイルーム、食堂、座敷での座る位置や人間関係等配慮しうまく交流が行えるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族と連絡をとり、相談を受けたりと必要に応じて関係継続を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や面会時等に本人や家族より思いや希望を確認している。その一環として誕生日に一人一人の夢や希望を叶える取り組みを行っている。	甘い食べ物やお酒の他、お花見や家族に会いたい等の願いを誕生日に叶えたり、なんでも自分でやりたいとの思いに配慮し、ベッド周りの手の届く所に物品を配置したり、食後中庭を車椅子で3周する日課を支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者には本人の思いを汲み取り、生活歴、サービス利用者の把握により馴染みの生活用品等も持ち込んで頂き安心した生活ができるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務出勤時には申し送り簿、生活支援記録に必ず目を通し、引継ぎで新たな情報を共有できるよう現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を第一に、主治医や介護者の意見も反映させながら、残存機能を生かした日課等一人ひとりの状態に応じたケア実践に向け、介護計画を作成している。	毎日のケアをサービス計画チェック表でチェックし、担当職員が月間の集計などで変化や現状の課題を把握し、計画作成担当者に計画の変更を提案することもある。階上の施設に入所されている伴侶に会うことを目標に、歩行訓練を嫌がる入居者に声をかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン計画チェック表、個別サービス管理表、生活支援記録、介護活動チェック表、健康管理表等の記録を職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設の特色を活かしコロナ禍でも行事や外出支援等工夫して行っている。また集団検診や訪問看護との連携等サービスの多機能化に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ対策前は校区内の小学校、幼稚園との交流や地域住民のボランティア、地元の春秋祭りの氏神様へのお参りや市民センターでの福祉祭りなどに参加し、可能な限り地域資源を活用できるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を確認し、かかりつけ医との個別受診、経過記録を作成している。在宅医療を活用し内科、皮膚科、歯科、眼科往診等、往診前日にFAXで情報提供し、当日は付き添いを行い支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。コロナ禍で、職員が受診に同行したり、訪問診療を受ける方も多い。訪問看護ステーションとの連携で、適切な医療受診や健康管理を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	複合施設内に看護師が常勤しており、緊急時には相談・対応も依頼できるように体制が整えている。また、訪問看護との医療連携体制を整備し、医療に関して24時間連絡・相談ができるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍で面会は困難だが、定期的に家族または医療関係者との情報交換を密に行っている。また、要望があればカンファレンスにも参加し、状態の把握に努め、早期退院できる様に連携を取っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化ケア、看取り介護指針を作成し、家族一人一人に説明、同意を得ている。また、訪問看護と協力して医療連携体制を整備し、重度化や看取りに取り組んでいる。	入居契約時に、重度化や終末期に向けた指針を説明し、「看取りについての確認書」を取り交わしている。昨年6月、医師や訪問看護との医療連携で1名の看取りに関わっている。訪問看護に24時間いつでも相談できるので特に夜勤者はこころ強かったと、管理者は振り返っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修や勉強会にて学ぶ機会があり、またマニュアルを作成し、いつでも見れるように支援している。消防署からの救命についての実践講義はコロナ対策にて実施できていない。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	複合施設として定期的に昼夜を想定し避難訓練を実施している。また防災計画のマニュアルに沿って風水害、地震、火災等の避難訓練を入居者家族、地域の方々の協力を得て行うようにしている。	8月と12月に避難訓練を実施している。法人全体で備蓄し、備蓄台帳をもとに賞味期限内での消費を行っている。指定避難所の小学校までは距離もあり、施設内避難を検討している。継続していた救急救命研修は、消防署の訪問が困難で、延期されている。	個人別の既往歴や薬剤情報などの持ち出しファイルを作成されていますが、非常時の持ち出しを考慮し、全入居者の情報の一本化を期待します。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内での研修、推進プロジェクト、勉強会等において意識付けを行っており、プライバシーの確保、言葉かけに配慮し、さりげないサポートを心掛けている。また、個人情報書を作成し、対応について理解を得ている。	人格やプライバシーに関する研修を実施し、日々丁寧な対応や言葉かけを実践している。管理者は、寝たきり状態の方も〇〇さんと声かけすると、ハイと返事が帰ってくると話している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から日常生活や会話の中で自己決定ができるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室でゆっくり過ごされる方もいらっしゃれば、食堂でテレビを観られる方もいらっしゃり、本人のペースや希望を重視し、支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着用する衣類は本人に選んでいただき、意思決定ができない方はその方に似合ったものを選び支援している。化粧、髭剃り等自身でできる方に関しては自由にさせていただいている。また、出張理美容に来ていただき、希望時にカットやカラー、パーマ、顔そり等されている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けやお米とぎ、配膳、テーブル拭き等それぞれの意欲や残存機能を活かして手伝って頂いている。又、毎月の誕生日会、寿司バイキング、お好み喫茶、クリスマスや元旦等の食を楽しむイベントを多く取り入れている。	各ユニットでご飯を炊き、複合施設の厨房で調理された副菜を刻みやミキサー食にして、できる限り自分で摂食できるように見守りや介助をしている。誕生会やクリスマス、お正月などは、楽しく喜ばれる行事食を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	複合施設として調理は厨房で行われており、栄養士が栄養バランスを考えた献立を提供している。刻み食や糖尿病食、減塩食等、一人ひとりに応じた食事の提供を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口臭のある方はマウスウォッシュを使用したり、歯間ブラシ、口腔スポンジを使用する等一人ひとりの口腔状態に応じてケアを行っている。また、訪問歯科の先生より指導を受けたり、治療をして頂いている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成して、目安となるパターンの把握に努め、トイレ誘導等を行っている。また、できるだけ布パンツの使用を考え、支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。自立歩行や歩行器、シルバーカー、車イスなどでトイレに行かれるが、各ユニットに4か所のトイレが設置され、ゆっくりと使用できている。二人体制での支援や、夜間のみポータブルトイレを使用される入居者もいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤だけに頼らず、適度な運動や乳製品、水分を細めに提供し、腹部マッサージをして便秘予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は24時間入れる温度に設定されており、朝一番に希望される方、1人で個浴を楽しまれる方、気の合う方と入浴される方等、一人ひとりに応じた入浴を行っている。	週3回、午前中から入浴を支援している。24時間入浴できるが、1番風呂を希望される方が多く、夜間の希望はない。檜風呂に男性入居者2名で一緒に入ったり、職員2名での介助もあり、好みの洗顔ブラシを使用するなど、一人ひとりが楽しく入浴できるように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は一人ひとりの状態に応じて適度な活動を実施し、就寝時間等も生活習慣に応じて柔軟に対応しており、安眠できる支援を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が服薬している薬の説明書をファイリングし、全スタッフが見れるようにしている。副作用のある食べ物は代替にて提供している。服用後の異常等あれば主治医に連絡し、指示を仰いでいる。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	飲酒や編み物、ぬり絵、パズル、縫い物等本人の楽しみや生活歴、役割を大切に、継続できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対策前はドライブや花見、初詣等福祉車両を使用して車椅子の方でも外出できるよう支援していた。現在も感染状況等を考慮し、人混みを避けて気分転換に外出できるようドライブ等を行っている。	色々な行事が中止される中で、広い苑内の散歩や、密を避けながらドライブを継続している。初詣のために職員が制作した鳥居は本物そっくりで、入居者がお詣りしている写真が飾られている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ対策以前に行われていたショッピングや出張売店で買い物ができるよう管理ができる方は、自分でお金を所持されている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時には電話ができる様に支援している。また、携帯電話の管理ができる方には所持していただき、居室で通話していただいている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただく為、四季の草花や壁面を飾ったりしている。座敷には堀ごたつやマッサージチェアがあり、利用者がゆっくりとくつろげる雰囲気づくりをしている。玄関ではメダカ、中庭ではカメを飼っておりペットの世話をする日常を感じられるよう工夫している。	感染対策を講じ空気清浄器が設置され、採光にも配慮している。季節の花々がホームの至る所に飾られ、壁には職員と作った折り紙の作品が展示されている。リビングには、組み合わせ自由なテーブルや畳の間に掘りごたつ式のテーブルがあり、自宅のようにゆったりと寛ぐ入居者の姿がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	密を避け、食堂や談話コーナー、座敷等で利用者同士で過ごしたり、一人で読書をしたりと自由に過ごせる環境づくりを行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使いなれた家具や写真を持ち込んで頂き、家庭での生活の延長として過ごせるよう配慮している。	採光や眺望にも配慮された居室は、大きなクローゼットに日用品が整理され、ベッド周りの手の届く範囲に物が置かれた居室もある。毎日故人の写真に自分で入れたお茶を供える方や、職員にお供えを頼む方など夫々の暮らしの設えを支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる限り残存機能を生かした生活を心掛けている。施設内の手すり、起立する為の安全バー、居室トイレの表札、トイレ等も大きな字で表示し混乱のない様に工夫している。		